

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	シーフ	Lv.1:		レベル	2
サポートクラス	プリチャー	Lv.1:	プリチャー	性別	女
称号クラス				年齢	???
種族	レムレス			境遇	大成功
出自 (効果)	探索			目標	探索

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	5	9	8	9	13	13	6
ボーナス	1	3	2	3	4	4	2
クラス修正	1	1	1	1	1	1	0
他修正							
能力値	2	4	3	4	5	5	2

HP	35
MP	40
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手									
左手									
頭部	ハット					1			
胸部	ローブ					2			
補助	バックラー					2			-1
装身具	シーフズツール								
能力値			4	0	3	0	5	8	7
スキル						5			
その他									
総計(右)			4	0					
総計(左)			4	0	3	10	5	8	6
総計(両)			4	0					m
ダイス数			2 d	2 d	3 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	5	1		6	+ 3 d
トラップ解除	4	1		5	+ 2 d
危険感知	5	1		6	+ 2 d
エネミー識別	4			4	+ 2 d
アイテム鑑定	4			4	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
バックパック	
ベルトポーチ	
冒険者セット	
小型ハンマー	
小道具入れ	
↑筆記用具	
HPポーション	
MPポーション	
MPポーション	
MPポーション	

現在重量:	11	所持金:	537	預金・借金:	
最大重量:	12				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
エレメンタルボディ	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 物防+5、筋力基本値-2								
バタフライダンス	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 回避ダイス+1 d								
ドッジムーブ	1	2	効果参照				盾非装備	
効果: 回避達成値+『Lv+2』								
タウント	1	4	セットアップ	10	単体	感知		
効果: 精神と対決。自身の達成値に+SI*2勝利時逆上付与								
サーモンスピーチ	★	6	Major	20	範囲選択	精神		
効果: 2D+CL (貫通) の特殊攻撃。威圧付与								
パワーシャウト	★		パッシヴ					
効果: 特殊攻撃の命中+1 d								
グリッドフォース	1		パッシヴ					
効果: 特殊攻撃の攻撃力+Lv*3								
インタラプト	★		効果参照					
効果: パッシヴ以外の宣言スキルを打ち消す								
コネクトナーブ	1	4	セットアップ		自身			
効果: 特攻、行動、移動を+SI+2。シーン終了まで持続								
アンチトラップ	★							
効果: 異感知/解除、危険感知に+1								
ヒストリー	1							
効果: 史的知識判定の知力判定+1 d								
ファインドトラップ	★							
効果: 異感知+1d/失敗時異作動しない								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「 」はふと目を覚ました。「目を覚ます」という行為に言いようのない懐かしさを覚えた。周りを見る。一般的には廃墟と定義され得る、瓦礫と穴だらけの石造りの中らしい。何かの器具が散乱していたが、寝起きの霞む目ではよく見て取れない。

欠伸を一つ零し、さて、どうしてこんな辺鄙なところで寝ているのか、あとどうして自分は裸体なのか、寝ぼけ眼を擦りながら自身に問うてみた。

.....

.....ああ、そうだ。自分は『よその世界』から『この世界』まで、遙々"体"を寄こしたのだったか。こっちで組んだ生まれたてなのだから、生まれたばかりの姿でいることには何ら問題はない。

問題があるとすれば、なぜそこまでしたのかという動機がまるまるすっぽ抜けて行ってしまっていたことか。経緯とか、現在地とか、纏うべき衣服とか、あとついでに自分の名前とかもどこかに落としてきてしまったようだった。大変困った事態だ。暫く押し黙り考えて、ああ、と息とも呻きともつかぬ声が漏れた。肉声というものが自身から漏れ出るのは、実に変な心地だ。

一つだけ思い出したことがある。そうだ、体が組み上がり生まれ落ちる間際、何だかよく分からない偉そうな声があった。神竜王、とか名乗っていたらうらやま。あんまりにも強大な思念だったのだから、こちらの意識と拍子に色々転がってしまったのかもしれない。分かっているのは、神竜王から貰ったはずの使命すらも記憶と一緒にどこぞに行ったことと、力だけが置き去りになったことくらいだ。

.....、まあ無くなったものは仕方ない。そもそも世界を渡れただけで僥倖と言うべき事態である。やるべきことが分からなくても、やるべきなのだけは確かだ。どうしようもないなら思い出すところから始めよう。世界の漫遊でもしていれば、その内ひょっこり思い出すかもしれない。幸い、時間だけはあまる体だ。

大きく伸びをし、立ち上がる。情報を集めるなら街に出ねばなるまいし、街に出るなら服や路銀に換える何かが必要か。